雪上訓練（in 伯耆大山）

【報　告　者】かば
【日　　時】２月７日　　【天　候】晴れのち曇り
【参　加　者】LA久、Ｉ丸、N尾、Ｔ中ま、Ｓ本け、Ｔ橋、K崎、かば

≪コース≫

大山寺→下宝珠越 ベースキャンプ設営→付近にて雪上訓練→翌日の取付き部偵察

≪　報　　告　≫

まずは翌日の登攀に向けて、交番にきっちり登山届けを提出。私は登る対象を見るまで、この危機意識を理解できておりませんでした。やる気が有り、トレーニングを続けている希望者なら連れて行けばいいのにと。とんでもありません。リスキーです。

この日はベースの設営、雪訓、翌朝がヘッドランプでの出発となる為、取付き部の偵察だけに一日を費やします。

●ツボ足歩行

大山寺から下宝珠越までの、硬めの雪たっぷりの斜面で、アイゼンを着けずにブーツだけで登るツボ足歩行の訓練。ブーツ側面のエッジを効かせたり、トップの踏み跡を崩さぬように反動をつけずに足を進めていく感じは、いずれも沢登りでの高巻き時の動きに通じます。

●テン場設営

泊地に着くと、平地を作るべく斜面の雪を掘り出しました。効率よくブロック状に堀り出すスコップワーク。四辺の角付けにはスノーソーも有効です。複数必要なスコップは個装扱い。帰りの車を掘り出す際にも使うかもしれません。テントは、張ってすぐに四隅と張り縄を留めなければ、もたつく間に転がり飛んでしまうことがあります。三人で谷を駆けくだり、倒れ込むようにして摑まえました。雪は踏み締めると、摩擦熱で溶けて氷状に固まっているのだそうです。その為、竹ペグは浅くても充分に効き、深いものは撤収する際に苦労しました。

●スタンディングアックスビレイ

設営後は、付近の急斜面を使って本格的な雪訓です。スタンディング・アックス・ビレイで、スノーバーで取ったランナーを飛ばさないように滑落者を止める訓練。雪山でのビレイは「止める」ではなく「流す」こととは聞いておりました。しかし、あ

れほどまでにロープを出さなければ、衝撃でスノーバーが飛んでいくものとは思いもしませんでした。止めずに、むしろじゃんじゃん出す感じです。なかなか慣れることが出来ず、何度やってもスノーバーは高く飛び上がり、ロープを辿って滑落者を追いかけてきて雪に突き刺さります。衝撃のこの訓練、スプラッター映画のような超ド級の衝撃を起こさないように注意しましょう。

●滑落停止

興に乗って次第にエスカレートした滑落停止訓練では、T橋さんの落ち方が特に生々しく、彼の想像力の豊かさを感じさせられました。

●軟雪アンカー

土嚢袋に雪を詰め、スリングをタイオフして埋めた支点での懸垂下降は、やってみると随分印象が変わり、安心感がありました。スタッフバックとしても有効で、私のように不粋な者は家の中までこいつで整理しかねません。雪面にUの字に凹みをつけて支点とするスノーボラードによる恐怖の懸垂下降は、飛び上がって荷重をかけても一応大丈夫でした。

●埋没体験

最後に埋没体験。50cm ほど穴を掘り、実際に人間を埋め、雪崩に巻き込まれた際の気道の確保や雪の圧力で身動き出来ない状態を体験します。スクっと立ち上がれてしまった私は場が読めなかったのか。

雪訓終了後は食事の準備と、翌日の偵察とに別れました。暗いうちに行動を開始する効率の良さと、前日の偵察の大きさ。いつも美味しいS本さんの食事と、いつも開始前は沈みがちな自分。そんなことを感じる夜でした。

掘り出されるかば